

# 社会形成能力

## 研究課題

社会形成能力を育む教育活動の推進と校長の在り方

### 1 趣旨

今日、社会では、少子高齢化や核家族化の進行とともに、絶え間ない技術革新の中で、人間関係の希薄化の傾向が一層強まっている。また、周囲の人々との交流に消極的な家庭が増え、住民による地域活動が低迷したり、家庭の価値観の多様化や地域コミュニティの変化に伴い、子どもたちの人間関係を育み広げる機会が減少し、地域の中で社会性を高めたりすることが難しくなっている。

このような情勢の中で、学校においては、これからの社会を生きる子どもたちに、しなやかな知性と創造性、豊かな人間性を育むとともに、子どもたちが自己の置かれている状況を受け止め、他者と協力して社会の様々な活動に参画し、社会形成能力の基礎を身に付けられるようにしなければならない。

さらには、開かれた学校として地域コミュニティの核となり、社会とどう関わり、どのように貢献していけるかを考えた学校づくりを進めていく必要がある。

そのためには、子どもたちが考え行動するプロセスを重視し、地域の特色を生かした豊かな体験活動を積極的に取り入れていくことが大切である。また、全教育活動をキャリア教育の視点から捉え、幅広い学力、コミュニケーション能力や規範意識等、社会的・職業的自立に必要な基盤となる資質・能力を高めていく教育課程を編成し、働く意義や目的を探究して、自分なりの勤労観・職業観を形成していく指導をすることも重要である。

本分科会では、校長のリーダーシップの下、将来の社会を形成する役割を担う子どもたちに、各教科等で身に付けた知識や技能等を基に、よりよい社会の形成に向け、主体性をもって社会に参画し、課題を解決する力や態度を養うための具体的方策と成果を明らかにする。

### 2 研究発表とグループ協議

#### 研究発表 1

##### 〔視点①〕

社会の発展に貢献する資質・能力・態度を育む教育活動の推進

##### 〔発表題〕

地域の特性を生かした社会形成能力の育成  
 ～子どもの笑顔・保護者の笑顔・教職員の笑顔・  
 地域の笑顔を目指して～  
 沖縄県 石垣市立平久保小学校 座間味 玲子



### 〔発表要旨〕

社会形成能力を自己の役割を認識し、他者と協力しながら、より良い社会の実現に貢献しようとする意欲や課題解決に必要な能力や態度をとらえた。

子どもに「なりたい自分」「なれる自分」を実感できる創造的な教育活動の展開を目指し、へき地校の弱みを強みに変え、地域教育資源を活用した体験学習を行い、子どもの社会形成能力を育むための校長の指導性や関わりについて、「教育活動の取組」「校長の指導性」「子どもの変容」の3点からアンケートを実施した。

そして、視点を、①「地域の関わり」②「学校での取組」に絞り研究を行った。

- (1) 地域教育資源の活用や関係機関との連携に積極的に関わるとともに、校内組織を活用して取り組ませる。
- (2) 学校規模の違いと現状を共有しながら、学校間交流を進める。
- (3) 学校経営の方針に沿い、指導・助言及び実施状況の確認をきめ細かく行う。
- (4) 地域や保護者へ教育活動について丁寧に説明し、学校・地域・家庭が一体となった体制づくりを進める。

このような子どもや保護者・地域、そして教職員の笑顔が見られるような取組を推進することで、子どもがこれから社会の中で、自分の役割を果たしながら自己実現に向けた力を身に付けていけると考える。

### 〔グループ協議の概要〕

- (1) つなぐ・つたえるー発信力と校長

- ① 特色ある学校づくりや教育活動を継続させるためには、地域人材や関係機関と連携して組織・体制づくりを行うことやそれを評価・改善し、教育課程に位置付けていくことが重要である。
- ② 実践する教育活動の目的や意義を明確にするとともに、子どもの成長を学校内外に発信することで、教育活動の価値を相互に確認し共通理解を図ることが必要である。
- ③ 地域や学校を俯瞰できる立場にある校長が、その中の大切なことを見極め、学校づくりのビジョンを明確にして地域・職員・子どもに伝えていくことが大事である。

- (2) 人材の発掘・育成と校長

- ① 地域の人材や関係機関などをコーディネートする地域人材を見付けることが課題となっている。取組の継続性を考えると地域人材の発掘が大切であり、これも校長の役割の一つである。
- ② 退職校長などがもっている協力企業や人材などの情報を活用し、ネットワークを整備することも有効である。

## 研究発表2

## 〔視点②〕

身の回りの仕事や環境に関心を持ち、目標に向かって努力する態度を育成するキャリア教育の推進

## 〔発表題〕

子どもたちの夢や希望を育むキャリア教育の推進  
～学校・家庭・地域の連携による  
教育活動の推進と校長の在り方～  
北海道 枝幸町立乙忠部小学校 桜井 和則

## 〔発表要旨〕

子どもが、自立的に自分の未来を切り拓き、他者と協力して社会に参画し、変化に柔軟に対応できる態度を育成することが求められている。そこで、将来に夢や希望をもって学ぶキャリア教育の推進に向けて、次の視点から研究を行った。

- (1) 児童生徒質問紙より、現状を分析し改善策を打ち出し市町村校長会の動きを創る。
- (2) アンケートと先進実践事例より、キャリア教育を教育課程に浸透させ、教職員の意識改革を一歩進める。
- (3) 管内の実践事例より、校種間連携や地域の教育力を生かすために校長が果たすべき役割を明らかにする。

これにより、各校長会に児童生徒の現状分析と課題解決の方向性を共有する動きがスタートできた。また、教職員のキャリア教育への理解が深まり、主体性が育ってきた。

一方、取組の継続・維持やキャリア教育の価値付けを更に図り、指導計画への反映や教育課程の校種間連携を進めることが求められた。そのためにも、人材育成と教育理念の継承が重要である。

## 〔グループ協議の概要〕

- (1) キャリア教育の推進を担うコーディネーターと校長
  - ① 学校職員の異動を考慮すると、コーディネーターは地域（外部）の人に担っていただくことが大切である。
  - ② 地域（外部）のコーディネーターの選任には見極めが重要である。このことが、キャリア教育の充実に結び付くと考えられる。
  - ③ コーディネーターの発掘の方法としては、行政との関わり・地域企業との関わり・コミュニティ・スクールの活用などがある。
  - ④ キャリア教育としてやりたいことや学校としてやらなければならないことを、子どもの実態を踏まえて見極め、コーディネーターに伝えていくことが必要である。



## (2) 教職員の育成・意識改革と校長

- ① 目標に向かって努力する態度を育成するキャリア教育を進めていくためには、企画力・教職員の育成力・発信力といった校長のリーダーシップが必要である。
- ② 子どもにより良い勤労観や職業観を養うためにも、直接指導に当たる教職員の資質や意識が重要であり、働く意義や学ぶ意義をしっかりと認識している教職員の存在とその指導が重要である。
- ③ 価値観が多様化する中で、正しい勤労観や職業観を指導し、意識改革を促してキャリア教育に正対する教職員を育成していくことが求められる。
- ④ 教職員に、教師のもつ価値や教師が担う仕事の素晴らしさを伝えることが大切である。

## 3 まとめ

学校を核とした連携・協働の取組によって、子どもに地域への愛着や誇りを育み、地域の将来を担う人材の育成を図ることが重要である。また、地域住民相互の連携を深めるとともに、自立した地域社会の基盤の構築・活性化を図る「学校を核とした地域づくり」を推進していくことが重要になっている。

キャリア教育の本来の役割を改めて明確にするためにも、小学校段階から特別活動の中にキャリア教育の視点を取り入れていくことは重要であり、中学校以降のキャリア教育につながるものを整理し、そこで育成する資質・能力を明らかにした上で構成していくということが大切である。

## 〔成果〕

- (1) 社会の発展に貢献する資質・能力・態度を育む教育活動の推進に関わり、地域連携を推し進める校長の指導性が大切であることを確認できた。
- (2) 身の回りの仕事や環境に関心を持ち、目標に向かって努力する態度を育成するキャリア教育を力強く推進し、充実を図るには校長のリーダーシップが欠かせないことが確認できた。

## 〔課題〕

- (1) 将来の生活や社会と関連付けながら主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めること。
- (2) 「社会に開かれた教育課程」の理念の下、校長が中心となり組織体の学校として地域住民などと目標やビジョンを共有すること。
- (3) キャリア教育推進のための人材育成を進めること。
- (4) 「学校における働き方改革」も視野に入れたキャリア教育の推進のための知恵と工夫が必要であること。

